



**MORIOKA**  
ROTARY CLUB WEEKLY

第44回例会(6月7日)  
平成25年6月14日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10  
川徳デパート内  
例 会 場 同上 TEL (651) 1111 (代)  
FAX (653) 5622  
例 会 日 毎週金曜日12時30分～

会 長 藤村 文昭  
幹 事 佐藤 重昭  
会 報 福田 荘介  
クラブ直通電話 TEL (653) 5682

奉仕を通して平和を Peace Through Service..... 例会長 田中作次



ゲスト卓話

「これからの人生における三つの整理」

遺品整理士・グッドアクション(株) 代表取締役  
**福島 康子** 様

● スピーカー紹介 ●

盛岡市出身。金融機関やホテル勤務のあと、07年不動産会社役員に就任。09年に不動産コンサルタント会社「グッドアクション」を設立。昨年、岩手県内第1号となる遺品整理士の資格を取得し、遺品整理の仕事も始めた。近年、核家族化が進み一人暮らしの高齢者が増加、遺品を整理しきれずに悩む家族もあり、遺品整理の需要が高まっている。(阿部 広会員)

本日はこの伝統のある盛岡ロータリークラブの定例会にお招き下さりましてありがとうございます。私は盛岡市本宮にて遺品整理業を主とした会社、グッドアクション株式会社の代表をしております福島康子と申します。同じく本宮にてジャストワンという不動産会社で専務という立場で勤務も致しております。

遺品整理という言葉をあまり聞きなれない方もおられると思いますが、近年、加速化してきている高齢化：平成22年の国勢調査のデータによると、盛岡市で65歳以上の高齢者と呼ばれる方のみで構成されている世帯は全部で18,865世帯と約19,000世帯。その中でも65歳以上の一人暮らしで構成されている世帯というのが、9,479世帯で全体の半分である約50%、65歳以上の夫婦2人のみで構成されている世帯が8,693世帯と全体の約46%、つまり、65歳以上の高齢者のほとんどが2人以下の世帯で構成されていることがわかります。そういう環境に伴う孤独死、セルフ・ネグレクト（自己放任一人が通常の生活を維持するために必要な行為を行う意欲・能力を喪失し、自己の健康・安全を損なう事。医療を拒否し、不衛生な環境で生活を続け、家族や周囲から孤立し、孤独死に至る場合がある）、核家族化、少子化などさまざまな要因があります。

そういった状況の中で、遺品を整理処分するためには精神的・肉体的にもかなりの労力が必

要になってまいります。夫婦2人暮らしで先立たれてしまった高齢者の方、子供はいるが、遠方で仕事・家庭を持っているために実家に戻って整理する時間的余裕がない方。荷物が多すぎご遺族では整理・処分しきれない方などからのご依頼を多く頂いております。整理場所は岩手県内がほとんどですが、依頼される方は圧倒的に東京・名古屋・仙台など、県外の方からが多いです。

ご依頼で東京都内での遺品整理の実績もございます。

本日はこれからの人生を円満に過ごすために今から何が出来るのかという事を整理というキーワードを使ってお話しさせて頂きたいと思っております。

まず、整理には大きく分けて3種類あります。

- ①老前整理
- ②生前整理
- ③遺品整理

「老前整理」とは自分が老いる前の、気力・体力が充実しているうちに、身辺を見直して、いらぬモノを整理しようという考え方の事です。

年齢とやる気は反比例の関係にあります。多くの方は年を取るにつれてやる気が減退する傾向にあると思います。

元気があるうちに、今一度暮らしを見つめ直すという行為です。

整理整頓とは、物を必要な物と不要な物に分けて、不要な物を捨て、必要な物を使いやすい場所に置く事を意味します。

細かくは、整理は物をへらす事、整頓は物を配置する事の意味です。

終活、と言う言葉を皆様聞いたことがあるかと思いますが、これを別の言い方にすると、生前整理とも言います。

「生前整理」とは遺品整理を自分ですることなの？と思いがちですが、決して死ぬための準備ではありません。

自分が生きていうちに、元気なうちに自分の身辺整理をしてしまいましょう、と言うものです。何だか縁起でもない、と言われそうですが、死は急にやって来るものです。

自分が死ぬ日を決める事はできませんが、ある程度の年齢になると、少なからず自分の死を覚悟する時期が来ます。生前整理する瞬間とは、自分の人生の集大成を感じる季節に入ってからだと思う人は、少なくないかもしれません。

人生の最終章を意識し出した中高年たちに注目されているものに「エンディングノート」があります。これは文字通り、人生の終末期にさしかかり、自身の来歴や個人史、銀行口座や保険などの忘備録、入院に関する希望、財産・相続に関する思い、そして葬儀の希望などを綴り、家族や葬儀屋、ケアマネージャーなど施設に託すのが一般的です。

書店には様々な種類が並び、その注目度の高さを表しています。

核家族化と高齢化社会が進むことにより、ある一定の年齢に達した方であれば、将来の事を考えて、身の回りの整理を行う場合もあるかと思えます。

または、老後に施設などへ居住場所を変える事への準備として、生前整理を行う場合もあります。先日も一人暮らしの高齢者が脳梗塞になり施設へ入居することになったので住んでいた住居の荷物を整理処分して頂きたいとの依頼を受け作業してまいりました。

生前整理には、単に衣服や物だけではなく、資産の整理まで、多くの事が含まれます。

一見、生きて行く上で、後ろ向きな行動とも思われがちですが、人間の価値観の変化から考えてもとても有意義なことです。

それは、若い年代や中年など活動的な年代では、物を多く必要としたり、物からの喜びも多い年代です。

それが、年齢を重ねるにつれ、物への執着心も薄れ、物ではなく、心の豊かさに重点を置くようにと、価値観が次第に変化していきます。

生前整理は身の回りのことを整理する事で、今後の生活に安心が生まれます。

そして、天災など予想もしない出来事など、いつ・どこで、が分からない環境で、生前整理は、自分を守る有効な手段ともいえます。

自分がまだ生きていうちに、元気なうちに自分の身辺整理をしてしまいましょう、と言う前向きな行動なのです。

遺品整理とは最初に弊社の概要をご説明した通り、夫婦2人暮らしで先立たれてしまった高齢者の方、子供はいるが、遠方で仕事・家庭を持っているために実家に戻って整理する時間的余裕がない方。荷物が多すぎてご遺族では整理・処分しきれない方などからご依頼を頂いております。

ご遺族が一人でゆっくり整理して行くのも良いかと思いますが、弊社のような遺品整理業者のサービスを利用すると、例えば自分がまだ元気なうちに、身の回りの物を整理する事が出来ます。また場合によっては、自分が亡くなった後に、遺品を整理するように予約しておく事も出来ます。こうした事全ては、残された家族に少しでも負担をかけまいとする、気遣いの表れかもしれません。

また、今は一人で老後を暮らしている方も多いので、そうした人にとっては、このような業者のサービスは必要なものの一つとなると思います。

人間、だんだんと歳を重ねてくると、片づけるのが億劫になってしまいがちです。

晩年になって、引越などもそれほどしていないお家だと、荷物が山のように増えた、と言う話も良く聞きます。

一人で片付けるのが大変だと思ったら、信頼できる業者に頼むのが良いかもしれません。

最近、リサイクルショップや便利屋という看板を掲げているお店の中には、遺品整理をしてくれるところがあります。ただこの場合には、注意が必要です。無料で回収してくれるからと

言って、不用品を不法投棄する業者が増えてきております。事前にしっかり調べて、きちんと確認して下さい。その際も、しっかり見積りをもらいましょう。見積りしてもらおう際に全く見もせずに料金を提示する業者は後に必ず追加で請求してきます。弊社は必ずお見積りに伺ってから料金を提示致しますので追加請求は一切ございません。

見積りは無料ですので、一度来てもらってそれから決めて下さい。口頭でのやり取りは危険ですから、書面でのやり取りを心がけましょう。

そういった法令を順守しない業者と区別するために出来たのが、遺品整理士という社団法人遺品整理士認定協会が認定する資格です。ご遺族やご遺品のケアをしっかりと行い、残されたご家族に新たな人生を前向きに送ってもらうお手伝いをする為に、法令や、ご遺品の取り扱いの方法など、様々な事を勉強した後に与えられる資格で、私は昨年2月に岩手県第一号でこの遺品整理士の資格を取得いたしました。今や弊社スタッフ4名がこの資格を取得しております。現在全国には1,500名以上の遺品整理士の有資格者がおります。

最後になりましたが、しがらみに終わらない人生を過ごすには、適度なクリアリングが必要

だと思います。そして、整理する習慣を維持することで、自分の意思で、モノを整理すること。モノの整理することは、あなたの心の洗濯でもあるんだって事も、みなさんの貴重な人生においても大切なことなのではないでしょうか。究極の整理というのは、良いモノを残すことなのかもしれません。モノを仕分けることも大切だと思います。まとめると、人生の棚卸ですね。そのことから、自分の状態にあった環境整理と言う面で、身の回りの整理は有意義です。

整理という言葉とともに、弊社のような3つの整理をお手伝いする会社も存在します。

簡単な身の回りにある物の整理から、難しい資産整理までを、それぞれの必要に応じた知識を有する人と一緒に整理することで、その後のトラブル回避や、確かな管理が可能となります。「整理」とは、人生の衣替え。貯め込んだモノを整理して、すっきり快適な第二の人生を過ごすためのものなのです。

モノと向き合って不便としがらみをすっきり整理することにより、新たなライフスタイルを心地よく、そして安心して過ごすことができるようにすることなのです。以上で私からのお話は終わりにさせていただきます。ご静聴ありがとうございました。

## 東京ステーションホテル視察旅行

6月1日(土)～6月2日(日)

大見山俊雄会員のご尽力で、盛岡 RC 東京駅丸の内駅舎・東京ステーションホテル視察旅行が開催されました。当日の参加者は10組の会員ご夫婦と単独参加含め、22名でした。客室見学、夜のステーションホテルでのディナー、メトロポリタン丸の内28階での二次会と大変盛り上がりました。また、米内正会員ご夫婦が結婚記念日だったので全員でお祝いもしました。

翌日も、全員で普段、皇室の方以外入れない「梅の間」、そして駅長室、ロイヤルスイート等々を見学。昼食はステーションホテル地下の和食「しち十二候」にて盛岡 RC 東京支部の皆様と久々にお会いして旧交を温めあいました。有意義な二日間の旅でした。大見山会員に感謝申し上げます。

幹事 佐藤重昭



例会報告

第44回例会  
平成25年6月7日(金)

- 於 川徳 12時30分 開会点鐘
- ・司会 長澤 茂副会長
- ・ソング 奉仕の理想
- ・国歌 君が代
- ・ゲスト 福島康子様 (グッドアクション(株)代表取締役)。
- ・ビジター 川鍋一夫さん (大宮西R.C.)。
- ・皆出席バッチ 近藤 駿君 (27年)。
- ・会長報告 長澤 茂副会長
- ・入会祝 熊谷昭三・柴田義春・近藤 駿・民部田義男君。
- ・誕生祝 佐藤義正君。
- ・結婚祝 大見山俊雄・村井研一郎・福田荘介・米内 正・阿部広・福田泰司君。
- ・幹事報告 佐藤重昭幹事  
終了後定例理事会開催

【他クラブ例会変更のお知らせ】

- 盛岡北R.C.= 6月19日(水)はクラブ協議会のため18:30~。6月26日(木)は特別休会。

【ニコニコBOX】

- ◆川鍋一夫君 (大宮西RC) …本日はお世話になります。網張温泉で短歌会の研修中です。東京方面にお越しの時は大宮西RCへもご来訪願います。
- ◆吉田育弘君…6月3日、18名で東京NHK放送センターの見学をいたして参りました。つきましては、道協局長さんに変にお世話になりました。VIPのご接待をいただき、普通では見られないセットスタジオ「八重の桜」「あまちゃん」他に館内いろいろ、一同感動して拝見させていただきました。道協局長さんには、その日盛岡から東京までわざわざ出られNHK放送センター玄関でお出迎えをいただきました。誠に恐縮いたしております。心から感謝し、心より御礼申し上げる次第です。ありがとうございました。盛岡ロータリークラブのありがたさも感じつつ、BOXします。尚、その日は、歌舞伎座、柿茸落 (こけらおとし) と夜はスペイン料理を食べフラーメンコを見て来ました。
- ◆福田泰司君…盛岡での勤務は4年3ヶ月で、仕事の上ではさまざま

な事がありましたが、盛岡ロータリークラブの皆さまには、仕事を離れた楽しいお付き合いをさせていただきました。本当にありがとうございました。盛岡ロータリークラブの発展をお祈りいたします。

◆駒木進君…福島さん、個人的に興味ある卓話ありがとうございました。実は福島さんとは某金融機関の同期入社です (年令は違いますけど)。これからのますますのご活躍をお祈り致します。

◆米内正君…6月1日の東京駅の視察旅行に参加させていただき、大見山様はじめ関係者の皆様に大変お世話になりました。6月1日は私ども夫婦の38回目の結婚記念日でもあり、皆様に祝福され、よき思い出となりました。10組の参加者の中で5組が昭和50年に結婚したということがわかり、お互いの結婚話に花が咲き、楽しい記念すべき日となりました。

●メークアップ

盛岡西R.C.=星・川村(登)・市丸君。盛岡滝ノ沢R.C.=菊池君。クラブ委員会=藤村・福井・平井・加藤・川村(宗)・駒木・村井(良)・田中・山岸・道協君。

出席報告    会員数 /67名    出席数 /39名    出席率 /60.93%    前々回修正出席率 /83.61%

・6月14日(金) 第4回クラブアッセンブリー

プログラムの  
お知らせ

20日(木) ターミネートパーティー (21日例会変更)

28日(金) 特別休会

●本号編集担当 / 福田 荘介

●次号編集担当 / 加藤 正幸

※訂正とお詫び…第42回(5月24日)・第43回(5月31日)例会号において、表紙上段の青色タイトル文字部分が、印刷会社の手違いにより昨年度のもので印刷されてしまいました。また第43回例会号の「東京支部懇親会記事」の文責は小西隆昭様によるものでした。訂正の上、深くお詫び申し上げます。なお、差し替えをご希望の方は事務局までお申し出ください。